

第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針 令和元年度説明会の概要（2月実施分）

【十日町地域】

日時、会場等		主な意見等
十日町南地区	日時	2月19日（火） 19：00～20：20
	会場	川治公民館講堂
	対象	十日町南地域自治振興会 ・役員、理事
	人数	23人
		① 中学校の場合、松代中と吉田中と南中の3校で統合の話であるが、松代では反対していると聞いている。松代が統合しなくても、吉田中と南中で統合することはあるのか。 [答] 学校統合の今までの例では、PTA会長と地域の代表者連名で、統合要望書を提出していただき、教育委員会は地域自治組織の皆さんに統合の可否を諮るという手順になる。要望書が提出されない限り、教育委員会では動けない。松代地域が反対であれば、動きが無いわけである。吉田地域の皆さんは、吉田中学校の場所に、小中一貫校を作ってほしいという考えから、要望書をいただいた。教育委員会としては、吉田小と鑑島小は吉田小に統合、吉田中が南中に統合という提案をしているため、吉田地域の皆さんから色々な議論があると思っている。松代地域は、学区適正化に関する方針を議会に中間報告し、それが新聞報道となって、松代中学校が無くなることは地域がさびれてしまう、大変なことだということで反対署名を行った。松代地域では、子どもが少なくなることが切なく、どうするかという悩みがあるが、統合については反対という考えの方が多いため、動きが取れないという実態である。仮にということで、松代地域は動かず、吉田地域は合意ができれば、初めに吉田中が南中と一緒にすることはあり得ると思う。実際はなかなか難しく、議論がどのように進むかを注視している。 ② 資料を見ると、子どもたちの人数だけを考えたときには、教育委員会の言うことが正しい気がするが、過去に統合で六箇小学校を無くした体験を基に言うと、住民感情として一概に、学校が大きくなって、良くなるから良いとはならない。当時の市との約束をほぼ反故にされたまま、いつの間にか学校が無くなってしまったという経緯がある。そういう気持ちをうまく埋めないと、小さな地域から大きな地域に入っていくには、住民感情が難しいものがある。南中学校区だけを考えれば、今の計画では迎え入れる側であり、皆さんが深刻に考えてはいないかと思う。吉田に小中一貫校を作るということが、現実となった場合には、南中学校区からそちらに行くことも考えられる。子どもたちの人数や学級数は、統合するときには重要だと思うが、地域住民の考えをもっと重視しても良いのではないか。 [答] 地域で皆さんの考えがどのようにまとまるかが、とても大事だと思う。教育委員会が方針を定め、説明しているが、子どもの人数の減少の具合を地域の皆さんからまず知ってほしい。その中で、地域の学校をどうするのか考えてほしいということで、説明会を繰り返している。統合の場合は、統合する学校のPTA会長と地域の代表者の連名で要望書をいただくことになるが、その前段ではPTAの皆さんがしっかり考えられると思うし、地域の皆さんもしっかり意見交換しながら、要望書をまとめると思う。教育委員会は、地域の皆さんの考えを最大限尊重した中で進めている。計画を定めて無理やり進めることができない仕組み

(十日町南地区)		になっている。公の施設を無くすときは、地域自治組織の意見を伺うという仕組みが条例でできている。それを踏まえながら、できるだけ地域の皆さんからご理解いただけるよう努力しなければならないと感じている。 ③ 閉校により空き校舎になった場合、災害時の避難所として学校や公民館が考えられる。閉校した学校が避難所になったときに、使用されていない施設は次第に荒廃して、避難できるような状態ではないことが考えられる。小規模な学校が悪いということがどうかと思うし、地域自治組織が学校区の範囲を前提に作った経緯があると聞いている。学校が無くなっていくと、自治組織がどうなるのか、教育とは別に並行して考えないと、上手くいかないと思う。 [答] 避難所の指定については、防災安全課が指定する。通常は、閉校して校舎を取り壊しても、体育館については社会体育で使用する例が多い。また、企業への売り渡しや、大地の芸術祭の作品として活用しているところである。閉校しても、行政として使える施設は、避難所として指定している。閉校後の管理は、教育委員会から離れる例があり、管理者がいつでも使えるように管理をしなければならないと思う。地域自治組織のエリアについては、若干違うところもあるが、市町村合併時点の中学校区のエリアに近いのではないかなと思う。松代中と吉田中を南中に統合ということだが、教育委員会としては、地域自治組織まで広げるという考えは持っていない。それぞれの地域のコミュニティは、大切ではないかなと思う。 ④ 松代地域から南中に通学する場合、物理的に遠すぎるのではないかな。実際にはどうやって通学するのか。保護者の負担軽減というが、部活動やPTAの活動などでも、学校が遠くなることを考えると負担が増えると思う。そういったことを検討したのか。 [答] 松代地域の皆さんが一番心配されているのが、地域が寂れるということと、保護者からは通学時間が長くなることである。まつだい駅から南中学校までは25分程度かかるため、まつだい駅より奥の地域からはさらに通学時間がかかる。通学時間をより短くするためには、どういうスクールバスの運行ができるのか、検討が必要な部分であると思っている。 ⑤ 松代地域は奥が深く、孟地地区の滝沢や雲海がある清水や桐山など距離がある。冬場は道も狭く、という理由で南中学校へ統合することを考えたのか。もしも、子どもが怪我や具合が悪くなった場合に、保護者から迎えに来てほしいと言っても、松代地域から来るのは負担が大きいと思う。 [答] 松代地域では、反対の署名があったが、早く統合してほしいという話も承っている。人数が少ないために、松代中学校の部活動に自分の好きな種目ができないということで、住所を移転して好きな部活動のある学校へ通うという動きもある。地域の皆さんは、子どもが少なくなることで複雑な思いがあるようだ。なぜ南中学校を拠点にしたかという、ひとつは大きな人数を集められる教室があること、吉田中はそれほどの規模が無い。松代中については、耐震性には問題がないが老朽化している。松代地域の滝沢や清水などの奥の地区では、小学生と中学生は市営バスを使って通学している。その方法をできるだけ短時間で南中へ連れて来るには、専用のスクールバスを考えるなどを研究中である。できるだけ子どもたちの負担にならない方
----------	--	--

（十日町南地区）	法をとれないかということである。 ⑥ 教員の人数について、教員は県の採用だと思うが、5教科以外の美術や音楽、保健体育などの教員を市で独自に雇い、市内の学校に配置するような方式はできないか。 [答] 市独自で教員を雇用して、市内の学校に配置することができるのか分からないが、基本的には県が雇用している教員が配置された中で運営している。現在、市が学校を支援しているものでは、教育助手に教員免許をお持ちの方を入れている。また、特別な支援を必要とする子どもたちが増えていることから、見守りのために、教育支援員を教員の資格は関係なしで採用している。市全体では50人ほどの方が、色々な形で担任の教育活動を支える取り組みをしている。 ⑦ このまま子どもがどんどん減っていくと、十日町市に小学校が1つ、中学校が1つという考え方はあるか。 [答] とてもそういう想定はできないと思う。 ⑧ 小さいところから大きいところへ行くと、数の論理で発言力が大きければそれに飲み込まれてしまう可能性があるのでは、皆さんがそこを心配していると思う。子どもたちは、しばらくするとなれると思うが、地域はなかなかうまく乗り切れずに不安がある。大きな地域は、小さな配慮で構わないが、配慮するという説明がなされれば、まだやり方はあると思うので、そういうことも考えてほしい。 [答] 南中学校区については、受け入れる立場であり、小さなところから来る皆さんを温かく迎え入れていただければ、とても有難いと思う。松代中学校と吉田中学校と南中学校の再編については、必要により学校名等の検討を記載した。南中学校は、旧十日町市では南に位置していたことでそういう名称なのではないかと思うが、市町村合併して大きくなったエリアでは、果たして南中学校で良いのかどうかという思いである。統合で小さなところから来る子供たち、また保護者については、吸収合併に拒否反応が出ると思われるところであるため、受け入れ側としては、検討していただければありがたいと思う。 ⑨ 南中学校、松代中学校、吉田中学校区のこれだけ広い地域で、子どもたちの病気やケガなどがあつた場合の病院との連携、それに伴い両親が共働きの場合に待機する場所などを考えているのか。移動距離が長くなれば、犯罪に巻き込まれる可能性も高くなる。スクールバス運行外でフォローができるのか。考えておきますというだけでは、厳しいのではないかと思う。 [答] 確かに学校でケガをすることがあるが、結局は保護者が来るまで学校側で管理をする。また、家族に代わって、病院に連れて行かなければならない状態であれば連れていく。家族が来るまでは、学校側で責任を持って対応しなければならない。子どもたちが何かの理由で早退する場合に、スクールバス以外に十日町と松代間にバス路線があることが、ひとつのメリットであるし、ほくほく線でまつだい駅まで10分程度で着くこともある。距離があるけれども、他の地域に比べ、国道253やほくほく線を利用しやすいと感じている。犯罪については、遠距離の部分はスクールバスの中に居て、スクールバスを降りてからになると、現在の松代中学校の条件と同じではないかと思う。
---	---

（十日町南地区）		⑩ 部活に関しては、早朝練習や遅くまで部活動をやっていることもある。結局保護者が、送りや迎えに来ることになると思う。そういう負担に関してはどう考えるか。 [答] 基本的には、スクールバスに乗れない時間まで、部活動をやった場合は、保護者で送迎をお願いしている。距離が長くなることで、保護者の負担が増えることはあると思う。先程申し上げたように、路線バスやほくほく線という手段もあるので、子どもの負担、保護者の負担が一番少ない方法を家庭で話し合っていたらと思う。 ⑪ 子どもが減少している中で、具体的に対策を考えていないのか。十日町市でも街なかへの住み替え支援を行っていると思うので、中心部に子どもの人口が集中して、山間部には人口が減ってくるということをどう考えているか。 [答] 子どもの減少については、根本は雇用の場の確保で、若者が働ける環境を作ることが大事だと思う。また、男性と女性が出会う機会を作るということで、出会いの場を作る取り組みを行っている。結婚されて、子どもができていく場合には、妊娠しやすくなる医療を受ける費用を支援している。また、妊娠しても流産しやすい体質の方が医療を受ける医療費の支援ができないか検討を進めていることもある。これらの取り組みによっても、すぐに子どもが増えるということにはなりにくいものであるが、雇用の場、子育て場の充実に力を入れているところである。街なかへの直接的な住み替え支援はないと思う。ＵターンやＩターンで、都会の方が当市へ転入した際に、夫婦と子どもが２人については定住支援金を差し上げている。また、住宅を建てれば、建設費に対する支援などは取り組みを行っている。
-----------------	--	---